

第V章 スタートカリキュラム

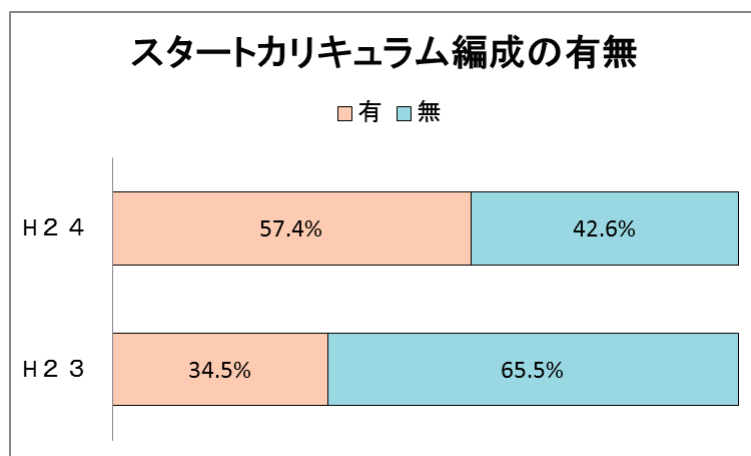
1 スタートカリキュラムの編成

(1) スタートカリキュラム編成の意義

遊びを中心とした幼児期の教育と、各教科等の学習を中心とした小学校教育では、教育内容や指導方法等は異なります。しかし、子どもの発達や学びは連続しており、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図ることが大切です。それにより、児童がスムーズに小学校生活をスタートすることができ、「小1プロブレム」の発生を防止することにつながります。

そこで、児童の学校生活への適応を進めるために、小学校入学後の一定期間においては、「明日も学校に来たい。」という児童の意欲をかきたてることのできるような、幼児期の教育との接続を意識したスタートカリキュラムを編成し、実践していくことが重要です。

平成24年度学校教育実施状況調査によると、「スタートカリキュラム編成の有無」について右記のような結果が見られました。各学校において編成が進んでいることがわかります。今後さらに編成に向けて取り組み、より多くの学校で実践されることが求められます。



平成23・24年度学校教育実施状況調査より

(2) スタートカリキュラム編成の流れ

スタートカリキュラムを編成する際は、幼児教育との接続の観点から、生活科を中心とした合科的・関連的な指導を行うなどの指導の効果を高めるための工夫が必要です。

* 合科的な指導

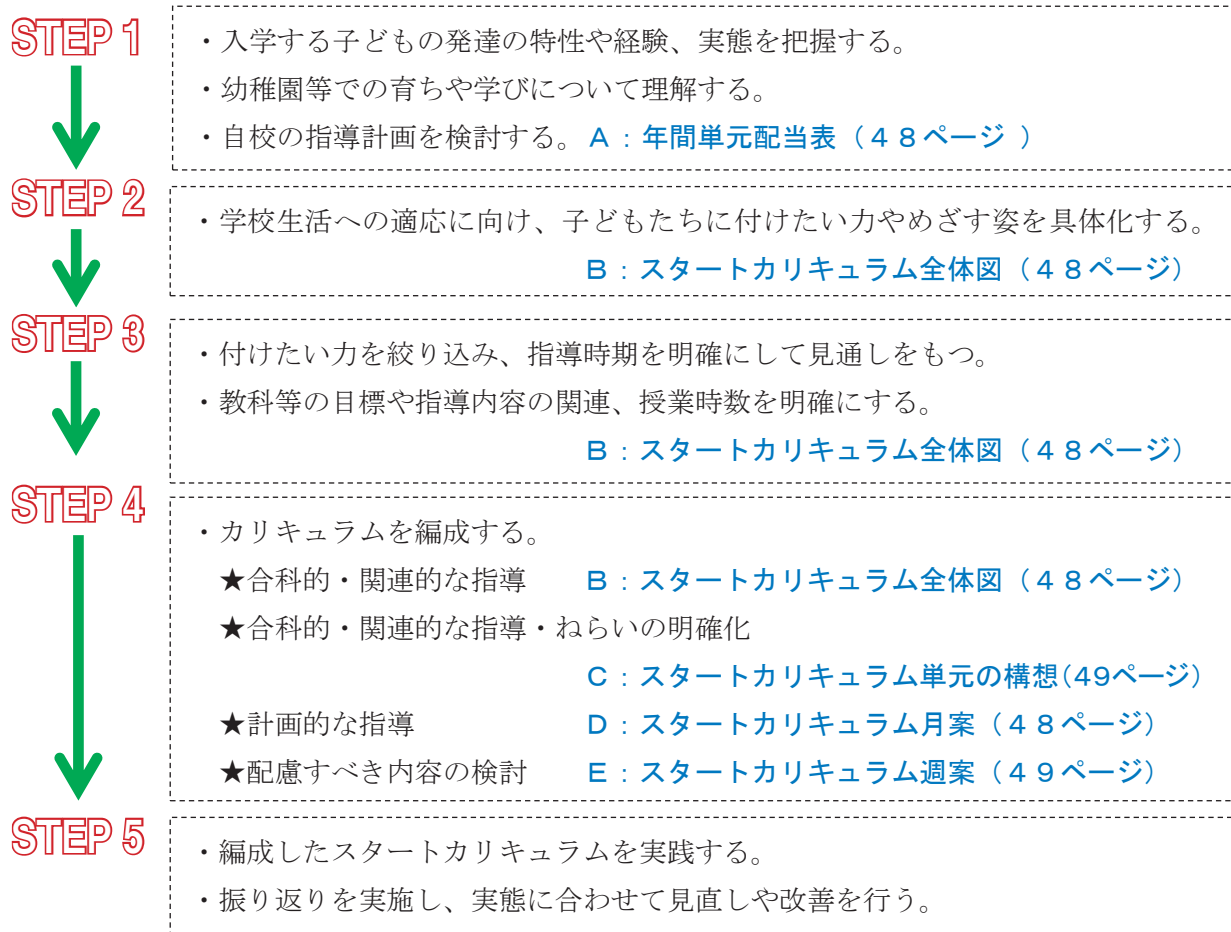
- ・各教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開するもの。

* 関連的な指導

- ・教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するもの。

小学校学習指導要領解説 総則編 (文部科学省 平成20年8月)

例えば、以下のような流れで、スタートカリキュラムを編成していきます。



* A～E スタートカリキュラム関係資料（４８ページ・４９ページ参照）

（３）スタートカリキュラム編成における主な留意点

スタートカリキュラム編成においては、各学校の実態を踏まえたうえで、次の点について留意していきます。

- ①幼稚園、保育所、認定こども園と連携協力すること
- ②個々の児童に対応した取組とすること
- ③学校全体での取組とすること
- ④保護者への適切な説明を行うこと
- ⑤授業時間や学習空間などの環境構成、人間関係づくりなどについて工夫すること

参考：「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」平成２２年１１月２２日
（幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議）